

能代科学技術高 3年生5人

ごみステーション 統合後も製作継承

能代市の能代科学技術高校の生徒が、木製の「ごみ収集箱」「ごみステーション」を製作し、寄贈先の自治会を募集している。前身の能代工業時代から続く地域貢献活動で、生徒たちは「伝統を受け継ぐだけでなく、新しさも取り入れて作った。後輩たちにも継続してもらいたい」と話す。

「ごみステーション」を寄贈する活動は、2010年度に行われた地域貢献策を考える「能工フォーラム」で生徒が提案。翌11年度から3年生が製作し、20年度までの10年間で市役所やJRの駅、地元自治会に計14個を贈った。

大きさは高さ1・4メートル、幅1メートル、奥行き0・6メートル。もう少しコンパクトなものがほしい」という要望があったことから、20年度より一回り小さくした。

本体に杉材と松材、屋根にはプラスチック製の波板を使用。屋根はこれまで多かった「片流れ」から「切り妻」に変更し、雪が両側に落ちやすくなった。ごみの出し入れ口にはボールカーテン式のネットを取り付けた。

佐藤桜花さん（3年）は

寄贈先の自治会を募集



完成したごみステーションと製作した3年生5人

「だんだんとチームワークも良くなり、話し合いながら協力して作業を進められた。能代科技高として最初の「ごみステーション」を製作できて誇らしい。最初は大変だが実際にやってみると楽しいので、後輩たちも挑戦してほしい」と話した。

市内の自治会を対象に寄贈

先を募集している。軽トラックなどに積んで学校から持ち帰れることが条件。複数の申し込みがあった場合は抽選を行う。申し込みは2月10日まで。引き渡しは2月下旬の予定。

申し込み、問い合わせは能代科学技術高校 ☎0185・74・5701（斎藤将典）